

作成日：2020 年 6 月 03 日

改訂日：2023 年 4 月 01 日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 : アクアライト水・標準品1
パーツNo. : D312139-1
会社名 : 株式会社 HIRANUMA
住 所 : 〒310-0836 茨城県水戸市元吉田町 1739
担当部門 : 品質保証部
電話番号 : (0120)47-6411 FAX 番号 : (029)240-0381

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

引火性液体 : 区分 3

健康有害性

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

: 区分 2 B

生殖毒性 : 区分 2

環境有害性

水生毒性(急性) : 区分 3

水生毒性(慢性) : 区分 3

絵表示またはシンボル



注意喚起語 : 警告

危険有害性情報 : 引火性液体および蒸気

眼刺激

生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い

水生生物に有害

長期継続的影響により水生生物に有害

注意書き

安全対策 : 取扱い注意事項をよく読み、理解してから取り扱う。

熱、火花、裸火などの着火源から遠ざける。

- 容器は密閉する。
- 移送、攪拌する場合は、容器および受器をアースする。
- 防爆型の機器を使用する。
- 火花を発生しない工具を使用する。
- 環境への放出を避ける。
- 適切な保護手袋、保護眼鏡、保護衣、保護面、保護マスクなどを着用する。
- 応急措置 : 眼に入った場合 : 流水で数分間洗い流す。医師の処置を受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 汚染された衣類および付着物を取り除く。皮膚を流水で洗う。
- 取り扱った後、手を洗う。
- 暴露または暴露の懸念がある場合 : 医師の処置を受ける。
- 保管 : 換気の良い冷暗所に保管する。
- 施錠して保管する。
- 廃棄 : 内容物や容器は関係法令に基づき適正に処理する。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

: 混合物

化学名	濃度 (%)	化学式	官報公示整理番号		CAS RN
			化審法番号	安衛法番号	
アニソール	90.5	CH ₃ OC ₆ H ₅	3-556	既存化学物質	100-66-3
ジエチレング リコールジメ チルエーテル	9.5	(CH ₃ OCH ₂ CH ₂) ₂ O	2-434	既存化学物質	111-96-6

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 直ちに新鮮な空気のある場所に移し、鼻をかませ、うがいをさせる。
- 皮膚に付着した場合 : 直ちに付着部を多量の水で十分に洗い流す。
- 目に入った場合 : 直ちに流水で15分以上洗い流し、眼科医の処置を受ける。
- 飲み込んだ場合 : 直ちに水または食塩水を飲ませて吐かせ、医師の処置を受ける。

応急措置をする者の保護

- : 救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 粉末・二酸化炭素、乾燥砂、泡
使ってはならない消火剤 : 水
- 特定の消火方法 : 速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能な場合は、容器および周囲に散水して冷却する。
消火作業は、風上から行う。
初期の火災には、粉末・二酸化炭素、乾燥砂などを用いる。大規模火災の際には、泡消火器などを用いて空気を遮断することが有効である。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業の際は、必ず保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 作業の際は適切な保護具を着用し、漏洩した液が皮膚に付着したり、蒸気を吸入しないようにする。風上から作業し、風下の人を退避させる。付近の着火源となるものを速やかに取り除く。露出した場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。
- 環境に対する注意事項 : 流出した製品が河川などに排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。
- 封じ込め、浄化の方法及び機材
- 封じ込め方法 : 漏洩した液はけいそう土などに吸着させて、空容器に回収する。漏洩した場所は、水で十分に洗い流す。
- 二次災害の防止策 : 付近の着火源となるものを速やかに取り除くとともに消火剤を準備する。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策 : 皮膚に付いたり、蒸気を吸入しないように適切な保護具を着用する。火気に注意する。
作業場所の換気を十分行う。
- 注意事項 : 密閉された装置、機械、または局所排気装置を使用する。取扱いは換気のよい場所で行なう。
- 保管
- 安全な保管条件 : 容器は密栓して冷暗所に保管する。

安全な容器包装材料

：ガラス、ふっ素樹脂、ステンレス

8. 暴露防止及び保護措置

アニソール	管理濃度：設定されていない 日本産業衛生学会 許容濃度：設定されていない
ジエチレングリコールジメチルエーテル	管理濃度：設定されていない 日本産業衛生学会 許容濃度：設定されていない

設備対策 : 取扱いについては、できるだけ密閉された装置、機器または局所排気装置を使用する。

保護具

呼吸器用の保護具 : 必要に応じて防毒マスク（有機ガス用）を着用する

手の保護具 : 耐溶剤手袋

目の保護具 : ゴーグル型保護眼鏡

皮膚及び身体の保護具

: 保護衣（長袖作業衣）、保護長靴、保護服等

9. 物理的及び化学的性質

物理状態 : 液体

色 : 無色

臭い : 芳香

pH : データなし

融点 : -37.3°C(アニソールとして)

凝固点 : データなし

沸点 : 153.75°C(アニソールとして)

引火点 : 51.7°C(アニソールとして)

自然発火点 : 475°C(アニソールとして)

分解温度 : データなし

可燃性 : データなし

蒸気圧 : 1.33hPa(20°C)(アニソールとして)

相対密度 : データなし

密度 : 0.99g/cm³ (20°C)

相対ガス密度 : データなし

溶解度 : 水 ; 不溶

有機溶媒 ; アセトン、エタノールに可溶

n-オクタノール/水分配係数(log Pow)

: 2.11(アニソールとして)

爆発限界 (vol %) : 上限 : 6.3vol% 下限 : 0.3vol%(アニソールとして)

動粘性率： : データなし
粒子特性 : データなし

10. 安定性及び反応性

反応性 : 酸化剤と接触すると反応することがある。
化学的安定性 : 通常条件で安定である。
危険有害反応可能性 : 通常の処理ではなし。
避けるべき条件 : 日光、熱
混触危険物質 : 酸化剤
危険有害な分解生成物 : 一酸化炭素

11. 有害性情報

急性毒性（経口） : 区分に該当しない
(アニソールとして)
ラット LD50=3700mg/kg
(ジエチレングリコールジメチルエーテルとして)
ラット LD50=4760mg/kg

急性毒性（経皮） : 分類できない

急性毒性（吸入） : 分類できない（蒸気・粉塵・ミスト）
(ジエチレングリコールジメチルエーテルとして)
ラット LC50=24mg/L/4H(ミストとして)

皮膚腐食性／刺激性 : 分類できない
ジエチレングリコールジメチルエーテルは区分外に分類されているが、アニソールのデータはなく、分類できないとした。

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 : 眼に対して刺激性がある
ジエチレングリコールジメチルエーテルは、ウサギの眼を軽度
に刺激するので、区分2Bとした。

呼吸器感作性 : 分類できない

皮膚感作性 : 分類できない
ジエチレングリコールジメチルエーテルは区分外に分類されているが、アニソールのデータはなく、分類できないとした。

生殖細胞変異原性 : 分類できない
ジエチレングリコールジメチルエーテルは区分外に分類されているが、アニソールのデータはなく、分類できないとした。

発がん性 : 分類できない

生殖毒性 : 生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い

アニソールのデータはないが、ジエチレングリコールジメチルエーテルは、ラット雄に吸入ばく露させた生殖毒性試験において受精率の減少が見られ、ラットの器官形成期に吸入ばく露した発生毒性試験において、仔の奇形は低率であるが吸収胚の増加（400ppmで100%）が見られている。

また、マウスの器官形成期に経口投与した発生毒性試験において親動物の死亡が認められる用量で仔の指脚の奇形、脳脱出、骨の奇形がみられ、さらにウサギを用いた生殖発生毒性試験において、親動物の毒性の見られる用量で胎仔吸収と仔の骨の奇形が見られることから区分2とした。

- 特定標的臓器毒性（単回ばく露）
：分類できない
- 特定標的臓器毒性（反復ばく露）
：分類できない
- 誤えん有害性
：分類できない

12. 環境影響情報

生態毒性

水性環境有害性 短期（急性）

：水生生物に有害

水性環境有害性 長期（慢性）

：長期継続的影響により水生生物に有害

（アニソールとして）

甲殻類（ミジンコ） EC50=11.05mg/L/24H

残留性・分解性
：アニソールおよびジエチレングリコールジメチルエーテルは微生物などによる分解性が良好と判断される物質である。

（アニソールとして） BOD：56%

生態蓄積性
：データなし

土壌中の移動性
：データなし

オゾン層への有害性：分類できない

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物
：スクラバーを具備した焼却炉で焼却処理を行う。または、都道府県知事の許可を得た廃棄物処理業者に委託処理をする。

容器
：空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上輸送(IMDG)

国連番号 (IMDG) : 2222
正式品名 (IMDG) : ANISOLE
容器等級(IMDG) : III
輸送危険物分類 (IMDG)
: 3

航空輸送(IATA)

国連番号 (IATA) : 2222
正式品名 (IATA) : Anisole
容器等級 (IATA) : III
輸送危険物分類 (IATA)
: 3

海洋汚染物質 : 非該当

MARPOL 73/78 附属書II 及びIBC コードによるばら積み輸送される液体物質

汚染物質カテゴリー

: 利用可能な情報はない

国内規制

陸上規制 : 消防法、毒物及び劇物取締法、道路法の規定に従う。

海上規制情報 : 船舶安全法の規定に従う。

航空規制情報 : 航空法の規定に従う。

その他の情報 : 補足情報なし

緊急時応急措置指針番号

: 128

15. 適用法令

消防法 : 危険物第4類引火性液体第2石油類非水溶性液体 (1000L)

化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)

: 第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1)

ジエチレングリコールジメチルエーテル (管理番号: 752)

毒物及び劇物取締法 : 非該当

労働安全衛生法 : 施行令別表第1危険物 (引火性の物)

船舶安全法 : 危規則第3条危険物告示別表第1引火性液体類

航空法 : 施行規則第194条危険物告示別表第1引火性液体類

港則法 : 施行規則第12条危険物告示引火性液体類

16. その他の情報

参考文献および参照ホームページ等

- 1) 社内資料
- 2) NITE化学物質総合情報提供システム(NITE-CHRIP)、(独)製品評価技術基盤機構.

*この安全データシートは、各種の文献などに基づいて作成していますが、必ずしもすべての情報を網羅しているものではありませんので、取り扱いには充分注意して下さい。なお、注意事項は通常の実施を対象としたものであり、特殊な取り扱いをする場合には、その用途・用法に適した安全対策を実施して下さい。また、含有量、物理／化学的性質、危険有害性などの記載内容は、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。この安全データシート(SDS)は、JIS Z7253 に基づいて作成しております。